

<平成29年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 三郷市立北中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年5月14日 (日)
- 場 所 : 三郷市立北中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (35名)、2年2組 (34名)
- オリンピアン : 長岡 千里 先生 (ボブスレー)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・長岡先生から自己紹介。オリンピックを身近に感じてほしいと授業の目的を確認し、準備体操へ移る。

3. 主運動



・8の字跳びを全3回実施。90秒間で跳べた回数を競うこと、引っ掛かっても続きから数えること、各回終了ごとに跳べた回数を発表すること伝える。
 ・最後にクラス全員で大縄跳びに挑戦。

4. まとめ



・最後のクラス全員跳び終了後に自然と拍手をしたりハイタッチをしていたことに触れ、全員が目標を意識し、それを喜びに変えられたことがとてもよかったと伝える。
 ・目標を達成するために頑張ったことは、オリンピックバリューにつながっているので、運動の時間のことを忘れずに教室に戻るよう伝え授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・座学の時間ではオリンピックを身近に感じられるようになってほしいと伝え、長岡先生が出場したトリノ大会の映像と写真を見せながら競技について説明。長岡先生が競技生活の中で感じたオリンピックバリューについて話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・個人で運動の時間に感じたことを書き出した後、どのオリンピックバリューに当てはまるかを班ごとに話し合う。
 ・自分ができるところを全力です、最後まで諦めずに頑張る、皆で強い意志を持つ、縄を回す速さと縄の長さ工夫した（エクセレンス）、声を出してモチベーションを上げる。リズムが崩れないようにする、友達を応援する（フレンドシップ）、回す人の負担が少なくなるよう工夫する（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・運動と座学の時間を振り返りながらオリンピックバリューは身近なところにあるということ、オリンピックは選手だけのものではなく、それに携わっているコーチやスタッフ、カメラマンや観客等、多くの人と一緒に作るものであり、東京2020大会は様々な立場でオリンピックに携わってほしいと話す。
 ・これからの人生の中で、様々なことがあると思うが何事にも興味を持って取り組んでほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年5月15日 (月)
- 場 所 : 三郷市立北中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (34名)
- オリンピアン : 酒井 友之 先生 (サッカー)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・酒井先生から自己紹介と授業の流れを確認した後、準備体操とボールを使ったウォーミングアップを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班に分かれてボールパスリレーを実施。1列に並び、後ろの人にボールを手渡しする（ボールを左右、上下を通して次に渡す）。

・手つなぎリレーを実施。全員で手をつないで輪になり、手をつないだまま走って15m程先に置かれたマーカーを回り、スタート地点まで戻る速さを競う。

3回目はボールをドリブルしながら走ることとした。



4. まとめ



・各班の頑張りを拍手で称え、個人や班でどういったことを考え、話し合っ運動したかを振り返りながら次の座学の授業を聞いてほしいと伝え、授業終了。





■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・酒井先生が出場したオリンピックや世界大会の映像を見せながら、自身の競技生活やオリンピック出場時の心境を話した後、近代オリンピックの復興や、オリンピックシンボルに込められた意味、酒井先生が経験したオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・運動の時間を振り返って実践できていたオリンピックバリューを考える。
 ・作戦タイムで話し合っ工夫した、ミスしても諦めない、ベストを尽くす、努力を続ける、勝てるように話し合う（エクセレンス）、声をかけ合う、失敗しても励まし合う、相手のことを考える（フレンドシップ）、仲間がいるから頑張れた、相手がいることに感謝、フェアプレー（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・自分のやりたいことや目標に向かっていく過程で、大きな壁にぶつかることもあるが、乗り越えた先に得られるものがあり、その壁が大きいほど、得られるものも大きいと伝える。
 ・これからみんなも諦めずに頑張ってもらいたい、自分の周りの人に対しての感謝の気持ちを忘れずに生活してほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年5月15日 (月)
- 場 所 : 三郷市立北中学校
- ク ラ ス : 2年4組 (34名)、2年5組 (35名)
- オリンピアン : 宮下 純一 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認

2. 準備体操



・宮下先生から自己紹介。今日は運動と座学の時間を通してオリンピックについて知ってもらいたいと話し、準備体操へ移る。

3. 主運動



・3班に分かれて大縄跳びを実施。跳び方は8の字跳び、全員跳びから選択し、8の字跳びは跳んだ回数を得点とすること、全員跳びは跳んだ回数に人数を掛けた数を得点とし、引っ掛かったら0から数え直し、60秒間で獲得した得点を競うことをルールとする。制限時間内に何度でも挑戦できるが、最後に跳んでいたポイントを各班から発表する。2回の合計得点が多かった上位2班で決勝戦を実施し、3位の班は大きな声で応援する。

4. まとめ



・次の座学では、運動の時間に取り組んだことや考えたこと、工夫したことについて話し合ってもらうので、運動の時間を振り返りながら教室に戻るよう伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・宮下先生から改めて自己紹介した後、座学の時間ではオリンピックとは何か、オリンピックとはどのような人か知ってもらいたいと授業の目的を確認。
- ・北京大会の映像を見せながら競技や当時の心境について説明し、競技を始めてからオリンピックに出場するまでに宮下先生が体験したオリンピックバリューを紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- ・学校生活、部活、家庭など日常生活にあるオリンピックバリューを考える。
- ・部活動の厳しい練習に取り組み成果がでた、先輩に悩みを相談して壁を乗り越えられた（エクセレンス）欠点を仲間同士で補い合う、ライバルを見つける、応援やアドバイス等の声かけをした（フレンドシップ）、負けてもありがとうと相手に伝える、自分を支えてくれる人への感謝、挨拶をする（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・東京2020大会に向けて選手たちがどのようにオリンピックバリューを活かして頑張っているのかを考えることで、違う角度からオリンピックを楽しむことができる。選手だけではなく皆もボランティアやスタッフ、観客として、それぞれのオリンピックへの思いを抱き、オリンピックを迎えてほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



2年4組





■ 集 合 写 真

2年5組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 証明書贈呈

